

連続シリーズ

ナースリハについて

~one care, one reha, one gift~



患者さんは、リハビリ室での訓練を終了し病棟に戻って入院生活を継続していきますが、訓練で獲得した ADL が生活上には反映されにくく、『できる ADL』に留まっていることが多くあります。患者さんの退院後生活に反映させるためには、獲得した『できる ADL』を『している ADL』に変換させる必要があります。セラピストが行なうリハビリにより基礎を身につけ、私達看護師が行う生活リハビリにより、応用力を身につけていきます。看護師が行なうリハビリは生活リハビリとなり、訓練以外の 21 時間が実質ナースリハビリの時間となります。生活行動の中には、食事、排泄、整容、清拭、更衣等ありますが、障害があっても、それらの動作を可能な限り自ら行うことが、ナースリハビリとなります。21 時間の病棟生活の中で繰り返し継続したりハビリを行うことで、機能が回復し、患者さんの自立支援や生活の再構築に繋がり、最終的には社会復帰を目指すこととなります。

ナースリハの内容

EXAMPLE

- ★背面開放座位により、意識レベルの改善を目指す
- ★スケジュールや時間の管理等ができるよう、生活の中に工夫を
- ★『話す・聞く・読む・書く』日常で継続できる工夫を
- ★摂食嚥下訓練により、経口摂取を目指す
- ★トイレで気持ちよく排泄できるよう、排尿・排便管理やトイレ動作の獲得をする
- ★歩行訓練、立位訓練、関節可動域訓練



etc...

この他にも看護師が日常生活の中で、患者さんに必要な動作を獲得できるよう内容を考え実践しています。

* ナースリハの詳細は、次回お知らせします *

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
2 階病棟クリニカルチーフ

今井 志保

